



長野県佐久市における 二地域居住の取り組みについて



佐久市移住交流推進課 主事

藤田 将大 (ふじた まさひろ)

令和5年 佐久市役所入庁、移住交流推進課配属

長野県佐久市ってどんなところ？

佐久市は長野県の東部に位置し、人口は97,451人（2024年4月1日時点）、面積は423.51㎡、標高は692m（市役所本庁のある地点）の高原都市で、首都圏からの玄関口です。

1993年に上信越自動車道が延伸し佐久ICができ、また、長野オリンピック前年の1997年には北陸新幹線佐久平駅が開業するなど、交通の便が良くなったことを契機に首都圏から移住される方が増え、2011年からは転入者が転出者を上回る「社会増」が続いています。佐久平駅から東京駅まで約70分という利便性から、新幹線乗車人員は1日当たり2,700人を超え、特に新幹線定期券の利用者は通勤・通学合わせて約1,100人と、県内では長野駅に次ぐ定期券利用者を数えます。佐久市のすぐ近くには軽井沢という日本有数のリゾート地がありますが、暮らしやすさという点で佐久地域全体を住む場所として選んでいただくケースが最近は増えています。

気候の面では年間を通じて日照時間が長く、全国でもトップクラスの晴天率を誇り、夏は熱帯夜（1日の最低気温が25℃以上の日）を気象観測史上記録したことがありません。一方、冬の冷え込みは厳しいですが、積雪は長野県内でも少なく、ほとんど雪かきをしなくてもいい地域です。

市内には市立国保浅間総合病院、農村医療で有名なJA長野厚生連佐久総合病院、そのほかにも多くの医院や診療所などがあり、市民の健康を支えています。このようなことから、人口10万人あたりの医師数は全国平均を大きく上回ります。

【佐久市の位置図】



【JR佐久平駅周辺】



佐久市のリモートワーク環境

市内には移住者や二地域居住者が活用できる「ワークテラス佐久」という県内最大規模のコワーキングスペースがあります。ここでは、移住してきたリモートワーカーの皆さんと先輩移住者さんとの新たなコミュニティが形成されています。さらに、ワークテラス佐久が中心となり「地域複業創出事業」という事業も実施しており、スキルを持った都心の方が副業として地方の企業のタスクを担い、ECサイトの制作や人材採用のサポートといった地方に足りない部分を補っていただけるような仕組みづくりが始まっています。

【ワークテラス佐久】



「教育移住」の可能性

佐久地域では、特徴のある教育を実践する私立の小学校をはじめ、新たな教育機関の開設が相次いでいます。佐久平駅の周辺にマンションが建ち並び、人口集中が進んだことから、県内では21年ぶりの分離新設校となる市立佐久平浅間小学校が開校しました。また市内の私立学校としては、英語を使い他教科を学ぶイマージョン教育が特徴のサミットアカデミーエレメンタリースクール佐久や、デジタルテクノロジーと行動分析学をかけあわせた先進教育を行うさやか星小学校が開校し、隣の佐久穂町にはイエナプランに基づく独自の教育を行う大日向小・中学校も開校しています。

近年は、こうした学校に入学するためにご家族で県外から教育移住してくるケースが多くなっています。



二地域居住の取り組みについて

これらの状況を踏まえて佐久市で行っている移住・二地域居住の取り組みを紹介します。

1 リモートワーカー等新幹線通勤補助金

従前の仕事を継続したまま移住するリモートワーカーや二地域居住者が増えています。こうした方が東京圏へ通勤する場合の新幹線の運賃を支援するため、2024年度より新たに開始した補助金です。

主な要件は以下のとおりです。

- 2024年4月1日以降に佐久市に移住し、転入日において40歳未満の方
 - 佐久平駅発着の北陸新幹線を利用して東京圏(埼玉県、千葉県、東京都および神奈川県)の職場へ行く、被用者または会社役員や個人事業主である方
 - 3年以上佐久市に定住する意思を持つ方
- 補助率は2分の1以内で、1か月当たり2万円が上限、期間は補助金受給開始後2年間で限度とします。



佐久市リモートワーカー等新幹線通勤補助金



2 UIJターン就業・創業移住支援事業補助金

東京圏、愛知県または大阪府からの移住者への支援金です。長野県が運営するマッチングサイトに掲載されている求人に応募し採用された方、県から創業支援金の交付決定を受けた方、リモートワーカーの方等を対象としています。補助額は単身世帯で60万円、2人以上の世帯100万円、18歳未満の世帯員1人につき100万円加算です。対象者の要件は他にもありますので、詳細は佐久市のホームページをご確認ください。

年々利用者が増加しており、佐久市では特にリモートワーカーの利用が目立っています。

佐久市UIJターン就業・創業移住支援事業補助金



3 移住検討者滞在費補助金

佐久市へ移住や二地域居住することを目的として佐久市を訪れ、住居または仕事探し等をする方に対し、市内に滞在するために発生する経費(レンタカー代、新幹線乗車券、高速バス乗車券、高速道路利用料、タクシー乗車料、宿泊費、一時保育サービス利用料)の一部を補助するものです。

移住や二地域居住に踏み切る前に、実際にその土地を見ることは有意義であり、地域の人や先輩移住者の皆さんとのつながりが生まれることで、その活動を後押しできていると考えています。制度を開始した2021年度以降、本補助金を利用した世帯のうち約4割の世帯が佐久市へ移住しています。

佐久市移住検討者滞在費補助金



4 行政初！ Slackを活用した 移住のオンラインサロン「リモート市役所」

ビジネスチャット「Slack」を使い、移住や暮らしの相談などに対応する移住の新しいプラットフォームです。佐久市の生活について、ポジティブなところだけでなく、ネガティブなところも含めて、住むうえで知っておきたいリアルな情報のやり取りが可能です。また、移住経験者も多く参加しているため、佐久市の移住に限った話ではなく、一般的な移住の悩みも相談できます。



5 「Shijuly」(シジュリー)

リモート市役所内の声を基に誕生した、試住に関する情報・タスクをまとめた、試住の支援&補助金サービスです。佐久市を4つのエリアに分けて各エリアの特徴を紹介し、試住に適した物件や一時預かりできる保育サービス、コワーキングスペースなど、試住に必要な情報をまとめています。



6 移住者向け賃貸住宅「ホシノマチ団地」

令和元年、国が推進する「生涯活躍のまち」構想に基づき、既存の市営住宅（特定公共賃貸住宅）を活用して移住者向け賃貸住宅「ホシノマチ団地」として開所しました。移住者同士が近い距離にすることで地域ともつながり、安心して住むことができる環境です。また、団地内には団地入居者が24時間365日無料で利用できるシェアオフィスもあります。

【ホシノマチ団地】



おわりに

各自治体でもそれぞれ東京一極集中の是正に向け地方への移住促進に取り組んでいるかと思いますが、佐久市では高速交通網による東京圏へのアクセス等の卓越性を活かした各移住施策を行っています。是非これらの取り組みを活用して、後悔のない移住を一度検討されてみてはいかがでしょうか。

各移住支援はこちら（市役所ホームページ）

